



Fig. 6. 村の水場.

トマンズの葉屋で売っている粉末です。この食欲不振は、たぶん僕の食習慣に合わせて3食とっているための変調でしょう。このあとでも、一しょに歩いたネパールサーブがもらったことがあります。彼はよく働き、寝るのはいつも僕よりあとで、12時前後です。僕と張り合うつもりで頑張っているのなら気の毒なので、わざと早目にテントに引き上げるのですが、彼はそういうつもりではないらしく、毎晩遅くまで標本の紙を取り替えています。彼等のやり方は、吸湿紙の間に標本を直接はさみ、翌日は別な吸湿紙にはさみ換えます。しかもこれは人夫の仕事で、茎を指でつまんで移しており、全体の形が崩れないような配慮はしませ

ん。だから標本は次第にクシャクシャになり、落ちやすい花や果実はみんなとれてしまい、最後まで茎にしがみついていた部分だけが標本になります。湿った紙は、昼間なら地面にしばらくひろげ、夜なら焚火に海苔をあぶる程度にサッとかざして使います。空気が乾いているので放っておいても乾くから、これくらいの処理で十分なのです。僕の方は日本式なので新聞紙が不足し、毎日標本を積み替えて風を通すだけ、従ってなかなか乾きません。不思議なのは、こんなやり方でも、カビが生えたり腐ったりすることが非常に少ないことです。17日に採ったものをこうやって25日まで半乾きのまま持ち歩き、日射で包みの中はずいぶん高温になりましたが、葉が離れたり黒変したりした程度で、腐ったものは少ないのです。彼等は我々のように標本をパリパリになるまでは乾かしません。すこしシナシナする程度を良しとします。これは標本の貼り方と関係があります。彼等は標本の一面に糊を塗り、直接台紙に貼りつけるという英国方式なので、あまりピンと乾いていると貼りにくいのです。ですから私の標本はあとでマウンターから「硬すぎる」と文句をいわれました。

(注) 最近もう一本できた。

(金井弘夫 Hiroo KANAI)

□大和市教育委員会(編):大和市の植物 164pp. 1991. 非売品。神奈川県のはぼ中央、横浜・藤沢・綾瀬・海老名・座間・相模原の各市と東京都町田市に囲まれた大和市は、南北に長い地域を占めている。横浜や東京に近い関係で、昭和34年の市制施行以来30年の間に人口も宅地も4~5倍にふくれ、田畑や山林など緑が急激に減少した。同市は緑地保全事業計画のため市域の動植物の生態調査を昭和62年度から4年計画で実施してきた。脊椎動物・昆虫・植物の3部会のうち、武井尚氏ほか13氏の会員が9調査区を分担してまとめた植物部会の結果が本書「大和市文化財調査報告書第40集——大和市動植物総合調査報告書2」である。大和市は大部分が平坦な相模原台地の上にあり、標

高40~80mで北に高く南に低い。神奈川県の下地に分布する種類が多い中に、多摩丘陵や丹沢・箱根など山地丘陵性の種類が混じり、県内での分布上問題のある種類や希少種類が171種取り上げ解説されている。帰化・逸出植物は年々増加している。次いで9調査区内それぞれの詳しい説明があり、シダ植物以上の目録には和名・学名などに加えて各調査区での有無が載っている。種数はシダ57、裸子10、双子葉類560、単子葉類198の合計825である。カラー写真60、白黒写真および地図多数、2万分の一地図1枚がある。付録として同市の天然記念物・保存樹木・古木巨木・街路樹・市の木・市の花のリストや説明がある。(伊藤 洋)